

国立大学法人

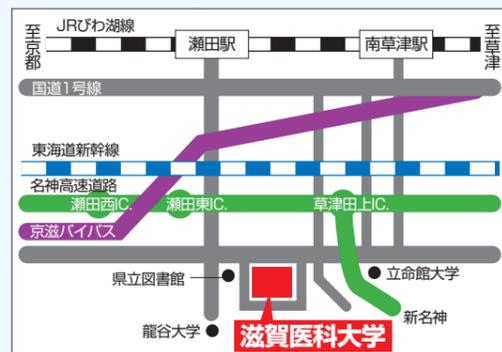
滋賀医科大学

<http://www.shiga-med.ac.jp/>

地域に支えられ世界に挑戦する大学



SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE ACTIVITY DIGEST



- JR瀬田駅から「滋賀医大」行きバスにて約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の 連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただければと考えています。
お気づきの点等がございましたら、下記連絡先までお寄せ下さいますよう、よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011
E-mail ● h_kikaku@belle.shiga-med.ac.jp
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学のこの1年

- '07 **4**
- 附属病院に腫瘍センターを設置
 - 入学宣誓式、大学院入学宣誓式
 - 健康創造科学研究会 (7/20、10/26、12/21、2/8、3/15 計6回開催)

- 5**
- 浜松医科大学との交流会
 - 解剖体納骨慰霊法要

- 6**
- 全国の大学病院で初めて附属病院にペインクリニック科を開設
 - 市民公開講座「ノーベル賞受賞者マーシャル教授の講演とやさしい胃の病気の話」を開催
 - 関連病院長会議

- 7**
- 第3回全人的医療を考える市民・学生参加シンポジウムを開催 (第4回:12/11)
 - 医師の生涯教育を目的としたワークショップ「琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース」を開催
 - オープンキャンパス (医学科)
 - 西日本医科学学生総合体育大会 (医学科)

- 8**
- オープンキャンパス (看護学科)
 - 新 (D) 病棟竣工

- 9**
- 滋賀県からの寄附講座「地域医療システム学講座」を設置
 - 新 (D) 病棟見学案内を実施

- 10**
- 解剖体慰霊式
 - 若鮎祭 (学園祭)

- 11**
- 研究動物慰霊式
 - 「全国豊かな海づくり大会」に医療廃棄物処理装置を出展
 - 外国人留学生等の研修旅行

- 12**
- 「都市エリア産学官連携促進事業 (発展型) キックオフ・フォーラム」を開催
 - 全学フォーラムを開催
 - 滋賀県との懇談会

- '08 **1**
- 家庭医療学講座を開設
 - 留学生との交流会「国際交流の夕べ」
 - 学内ESCO事業が省エネルギー優秀事例全国大会で省エネルギーセンター会長賞を受賞

- 2**
- 学外有識者会議
 - 個別学力試験 (前期日程)

- 3**
- 「都市エリア産学官連携促進事業 (発展型) 成果報告会」を開催
 - 学位授与式、卒業式



入学宣誓式

4月



解剖体納骨慰霊法要

5月



市民公開講座

6月



若鮎祭 (学園祭)

10月



外国人留学生等研修旅行

11月



都市エリアキックオフ・フォーラム

12月



オープンキャンパス

7月



新 (D) 病棟竣工

8月



新 (D) 病棟見学案内

9月



省エネルギーセンター会長賞受賞

1月



学外有識者会議

2月



卒業式

3月

滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

- 1 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3 コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4 参加型臨床（臨地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。

滋賀医科大学の使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。

（滋賀医科大学学則第1条より抜粋）



教育

良医を育て、名医が羽ばたく



地域医療を担う医師・看護師の養成と確保に向け“地域「里親」による学生支援プログラム”を、がん専門医を養成するため“がんプロフェッショナル養成プラン”を新たにスタートさせました。また、平成17年度から実施してきた「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」は最終年度を迎えました。このプログラムの成果を引き続き継承し、人を診る医師の育成を行っていきます。

人を診る医師を地域のみならずと共育てる

一般市民参加型全人的医療教育プログラムの実施

全人的医療が行える医師の育成を目指して、3つのプロジェクトを実施しました。

プロジェクトA

プロジェクトB

6年間一貫患者訪問実習

講義では学べないコミュニケーション力、患者さんの普段の生活・背景を理解することの大切さ等を学ぶための実習で、医学科の学生が約2ヶ月毎に患者さんのご自宅を訪問します。

平成20年度からはこの実習を正規科目とし、「全人的医療体験学習」として開講しています。



全学年一般市民参加型面接医療実習

医学科全学生がそれぞれの段階に応じ、一般市民の方に模擬患者の役を担っていただき、医療面接の実習を行っています。

プロジェクトC

全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウム

学生が全人的医療の重要性をより理解した上で患者様訪問実習へ臨めるよう、医療関係者や一般市民の方々に広く参加を求め意見交換を行いました。

平成19年12月11日に開催したシンポジウムでは、「全人的医療 全ての医療人の核心となる能力」と題した講演、医学生の発表等が行われ、328名の参加者がありました。



※本プログラムは、平成17～19年度に文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム（医療人GP）」の支援を受けたものです。

良好な国家試験合格率を維持するために

国家試験合格率 目標数値を設定

目標数値を設定するとともに、学生一人ひとりにきめ細かな指導を行ってきました。

国家試験合格率は順調に推移しています。

国家試験区分	目標数値	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年	
		95%以上	全国平均	95%以上	全国平均	95%以上	全国平均	95%以上	全国平均
医師	95%以上	96.4%	89.1%	91.8%	90.0%	97.1%	87.9%	95.0%	90.6%
看護師	98%以上	100%	91.4%	93.2%	88.3%	98.4%	90.6%	98.4%	90.3%
保健師	95%以上	92.6%	81.5%	91.7%	78.1%	100%	99.0%	97.3%	91.1%
助産師	-	-	-	-	-	100%	94.3%	100%	98.1%

生命の尊厳を認識させる取組

解剖実習における倫理教育

信頼される良き医療人を養成するため、倫理教育の一環として、解剖実習の献体(ご遺体)の受入から返骨までを学生自身の手で行わせています。これは、全国でも稀な取組です。

具体的には、役員と教職員に加えて学生を献体受入式に参加させ、ご遺族と対面する貴重な機会としています。また、解剖実習後の納棺、慰霊法要での納骨・返骨も学生に行わせています。



学生参加の
献体受入式

学生による返骨
(納骨慰霊法要)

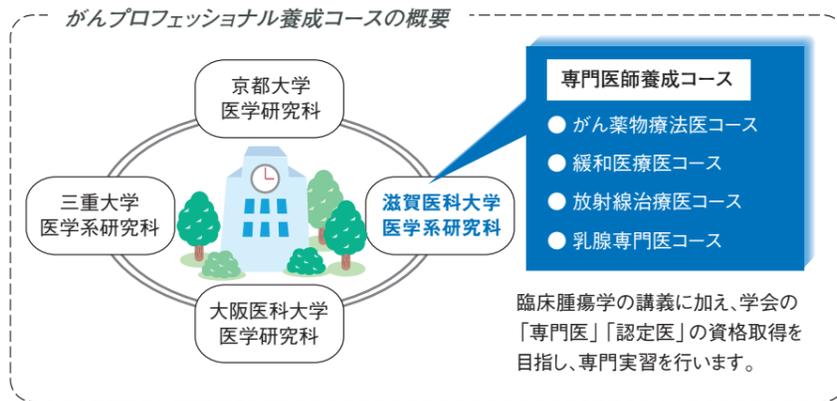
エキスパートを育成するために

がんプロフェッショナル養成プランの展開

平成21年度より、大学院博士課程の専攻科に専門医コースを設置することを決定しました。

これに先立ち、平成20年4月に、社会が求める高度ながん医療を先導できる人材を養成するための「がん専門医養成コース」を設置しました。平成20年度は6名が入学しました。

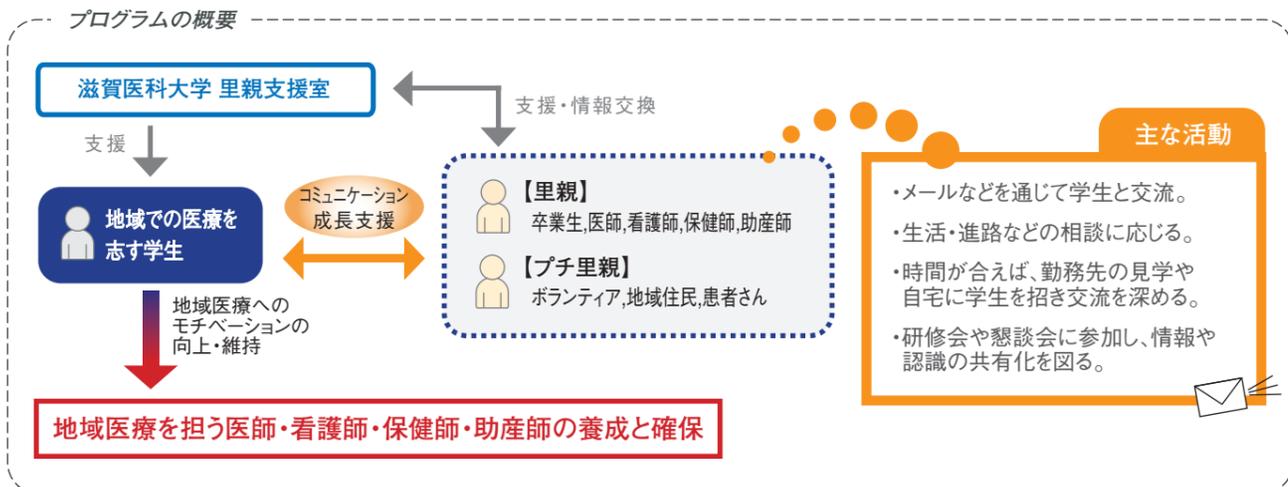
※本取組は、京都大学、三重大学、大阪医科大学との共同事業で、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」の支援を受け実施しています。



地域ぐるみで学生をバックアップ 医師・看護師不足解消へ

地域「里親」による学生支援プログラムの実施

地域の医療や生活を理解するために、卒業生や地域に暮らす方々に協力を得て、医師・看護師・保健師・助産師を目指す学生を支援し、その成長を見守っていくというプログラムです。



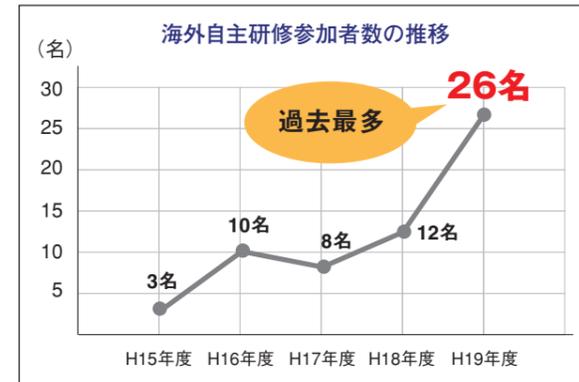
※本プログラムは、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に選定されました。

学生の自主性を伸ばし視野を広げるカリキュラム

海外自主研修参加者が過去最多に

本学では、医学科第4学年を対象に2~3カ月の日程で自主研修を実施しています。学生を医療機関や研究施設に派遣し、医療現場や最先端の研究に触れさせる機会を提供しています。

平成12年度からは国内だけではなく外国機関の紹介を開始、平成19年度に海外で自主研修を行った学生は過去最多となりました。



参加した学生の研修レポートより

・ハルピンでの自主研修はかけがえのないものとなりました。研究室での研修に加え、ハルピンやそこで生きる人達のことを知り、いろいろなことに目を向ける良い機会となりました。【中国 ハルピン医科大学で研修】

・アルツハイマー病の研究において、世界的権威のある先生の下で研修させていただきました。今回の自主研修では本当に様々なことを学びました。日本には学べなかったこと、気づけなかったことも多かったと思います。苦労もちろん多かったです、本当に行って良かったと感じています。

【カナダ プリティッシュコロンビア大学で研修】

海外自主研修の流れ

第3学年 大竹さんの場合

1月

- 遠山先生の研究室を訪ね研修先の外国機関を紹介してもらう。
- 研修先をカナダのラバル大学医学部感染症研究所に決定。

ラバル大学医学部
感染症研究所



- 渡航日程や滞り場所等を調整。
- 研修に向けて実験トレーニングを開始!

具体的には...

遠山先生より「免疫組織化学法※」を教わる。
漆谷先生より、様々な実験手技・操作、理論を教わる。

第4学年

7月

- 渡航!自主研修スタート!



研究補助員として、タンパク質精製とそれを用いた赤血球反応実験を行う。



休日には観光や小旅行。

9月

- 約7週間の研修を終えて無事帰国。
- 研修レポートを提出。

※神経回路の機能や仕組みを探究するための実験法の1つ。抗体反応を利用して、その分子の組織・細胞内の局在を可視化する技術で蛍光顕微鏡や光学顕微鏡等を用いて行う。

NEWS FLASH



「びわこバイオ医療大学間連携戦略」が平成20年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。

本プログラムにおいて、滋賀医科大学の「医学」と長浜バイオ大学の「バイオテクノロジー」というそれぞれの得意分野を生かし、「バイオ医療学」に関する講義、教材開発、大学院における人材育成等を共同で実施していきます。

研究

個性輝く研究、医療の革新へ

「何でもできる大学」ではなく、「何かができる大学」を目指し、
本学の特徴を生かせる5項目の重点プロジェクト、国際的にも注目される研究を推進しました。
また、研究の質の向上を図るため、研究活動に対するチェックと優秀な研究者の表彰を行いました。

特徴を生かせる研究を重点的に

重点プロジェクトの推進

サルを用いた 医学研究

鳥インフルエンザワクチン
の開発、再生医療への応用
に向けて

- 人獣共通感染症に関する基礎研究連携事業(文部科学省)を推進
- カニクイザル・テラーメードES細胞を用いた移植医療モデルシステムの構築
- 科学研究費補助金基盤研究(B)を獲得



核磁気共鳴(MR) 医学

体への負担が少ない医療(低
侵襲医療)を目指して

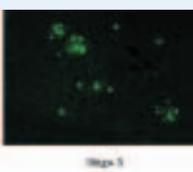
- MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用
- 科学研究費補助金基盤研究(S)を獲得
- 患者負担軽減のためのオンサイト診療システムの開発等
- 都市エリア産学官連携促進事業発展型(文部科学省)に採択
- マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用
- 独創的シーズ展開事業大学発ベンチャー創出推進(科学技術振興機構)に採択



神経難病研究

アルツハイマー病・神経難
病の早期発見・治療を目指
して

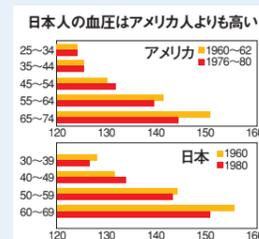
- アルツハイマー病の新規MR画像診断薬の開発
- 科学技術振興機構育成研究に採択
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)モデルマウスの免疫療法とマイクログリアの病態解析についての研究
- 科学研究費補助金基盤研究(B)を獲得



生活習慣病医学

動脈硬化症・メタボリック
シンドロームなどの予防の
ために

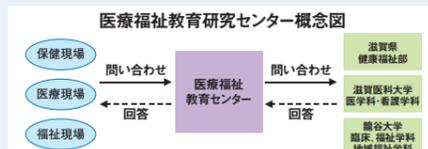
- 日米3集団の潜在性動脈硬化症危険因子に関する国際疫学共同研究
- 科学研究費補助金基盤研究(A)を獲得
- 疾病予防サービスに係るエビデンス構築のための大規模コホート共同研究
- 厚生労働科学研究費補助金を獲得
- 日本人における血漿中Lp-PLA2濃度およびLp-PLA2遺伝子多型と冠動脈疾患との関連の検討:断面・症例対照研究を推進



地域医療支援研究

保健・医療・福祉・教育の連
携を促進

- 滋賀県からの委託を受け、24時間在宅ケアシステム研究事業を実施



医療に役立つ独創的な研究

臨床応用を視野に入れた研究の推進

ナノ粒子の医学への応用



生命科学講座(化学)
小松 直樹 准教授

微小なダイヤモンド粒子(ナノダイヤモンド)を用いたイメージングプローブの開発に世界で初めて成功しました。

イメージングプローブとは、生体内の細胞や分子の活動を可視化するための標識剤です。これにより、これまでは見えにくかった小さながん細胞や病原体を検知することが可能になり、疾患の早期発見に役立つと考えられています。

他のイメージングプローブとは異なり、毒性の心配がなく安全です。また、蛍光顕微鏡とMRI装置により相補的な可視化が可能であるなど、実用性が極めて高いのが特徴です。

今後、このナノダイヤモンドイメージングプローブをがん細胞内に導入する手法や、生体内でのがん細胞の可視化について検討を行っていきます。

文部科学省 都市エリア産学官連携促進事業(発展型)

患者負担軽減のためのオンサイト診療システムの開発

オンサイト診療システムとは、「悪性腫瘍の発見と患部の特定」、「腫瘍の悪性度の測定・判断」、「腫瘍の切除・摘出」等、一連の治療を手術現場(オンサイト)で迅速に行えるシステムです。患者さんの身体的負担の軽減と術後のQOL(生活の質)の向上を実現することができます。

「腫瘍の切除・摘出」には、これまで開発を行ってきた「体腔鏡手術ロボット」を用います。従来の体腔鏡手術では、届かなかった部位にできた腫瘍も摘出することが可能になります。



研究副統括
外科学講座 谷 徹 教授



MR医学総合研究センター
犬伏 俊郎 教授

※体腔鏡手術:体に小さな穴を開け、カメラと細い手術器具を用いて行う手術

研究活動のCHECK & 優秀研究者の表彰

研究活動に対する評価の実施

教育研究担当副学長をトップとする研究活動・業績の評価検討会を発足させ、5つの重点研究の中間評価及び学長裁量経費による特別研究プロジェクトの実績評価を実施しました。

さらに、平成16~19年度の研究業績全体をチェックし、優れた業績をあげた研究者2名の表彰を行いました。

優秀 研究者 紹介



泌尿器科
岡本 圭生 講師

医学領域のトップジャーナルである「The Lancet」に責任著者として論文が掲載されたことなどが、高く評価されました。



循環器内科
髙本 尚慶 講師

質の高い論文を数多く発表しており、平成16~19年度の4年間、本学での研究において、インパクトファクターの合計値が最も高かったことなどが評価されました。

※インパクトファクター:学術雑誌の影響度を示す指標で、インパクトファクターが高いほど、影響力の高い論文を収録していると言えます。

診療

あたたかい最先端医療で安心と満足を



地域中核病院として、社会的要請の強い産科医療・小児医療等を積極的に推進するとともに、診療を通して良質な医療人の育成に努めました。

また、特定機能病院として専門的で質の高い先進医療及び研究成果を生かした医療の提供に努めました。

社会・地域の声に誠実に応えます

地域中核病院として診療・環境整備・人材育成を推進

小児科医不足が社会的な問題となっているなか、本院は地域の新生児医療の中核施設として、平成21年5月には病院再開発により、NICU（新生児集中治療室）とGCU（新生児回復室）を併せて15床に拡充するとともに、新生児専門医1名を増員し、フル稼働で診療にあたる予定です。



草津市の小児救急医療センターに医師を定期的に派遣し、センターの365日24時間診療を支えています。他施設も合わせると滋賀県全体の小児救急患者の60%以上を本学関係の小児科医が担っていることになります。

国立大学附属病院では数少ない「回復期リハビリテーション病棟」を開設しました。これは、家庭復帰や社会復帰を目指して、リハビリテーションを集中的に行う病棟です。

病気やけがの後、普段の生活を取り戻すためには、治療後の適切なリハビリが重要です。患者さんにとって、効率的なリハビリを行える環境を整えました。

院外から研修生・実習生（医師・看護師・薬剤師・理学療法士等）を408名受け入れ、人材育成に取り組みました。

また、地域の看護職を対象に、オープン研修「看護実践研修」を実施しました。



フレイク
タイム

患者給食にブラックバス料理 登場

入院患者さん向けの給食選択メニューの1つとして、平成20年5月21日の昼食に「ブラックバスのムニエル」を提供しました。

患者さんからは、「ふつうの白身魚とわからないくらい、やわらかくておいしかった。」などの声が聞かれました。

琵琶湖の生態系に影響を及ぼすブラックバスを食べて減らそうという動きに注目、タウリン含有量が豊富で脂肪が少なくヘルシーな魚であることから、メニュー開発に乗り出しました。

今後は、患者さんの反応をみながら毎月1回程度、選択メニューとして提供していく予定です。



安心して妊娠・出産ができる環境づくり

地域周産期医療への取組

滋賀県は周産期死亡率・新生児死亡率が全国に比べ高く、これらの原因を早急に調査・分析し、具体的な対策の立案等を行う目的で、平成19年9月に、滋賀県からの寄附による「地域医療システム学講座」を開設しました。

これまでに、県内全施設を対象に症例調査を実施したほか、滋賀県周産期医療協議会への提言等を行いました。また、産科、新生児科医師確保のための研修制度の創設、新生児蘇生講習会の開催等により、人材育成にも努めています。

地域医療システム学講座
高橋 健太郎 特任教授



また、「出産難民」「お産難民」など、全国的に産科医療の問題は深刻化していますが、本院では、ハイリスクな重症母体の受入数は増加しており、平成19年度の総分娩数は過去最多となりました。

最先端の医療を患者さんに

先進医療の推進

先進医療とは、最新の医学水準であると厚生労働大臣から承認された医療で、高度な技術を持つ医療スタッフと十分な施設や設備を持つ医療機関だけで行われています。本院では、以下の5件を実施しています。（平成20年10月現在）



- 1** ³¹ 燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断
患者さんの負担の少ない方法で足病変の診断を早期かつ正確に行います。
- 2** 樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法
がん組織に集中・殺傷するよう培養されたリンパ球を点滴により移入します。本院では、乳がん・肺がん・消化器がん等が対象疾患です。
- 3** 抗がん剤感受性試験（CD-DST法）
患者さんから採取した腫瘍組織を用いて検査し、個々の患者さんに最適な抗がん剤の選択・投与を行います。本院では、消化器がん・乳がん・転移性肝がん・転移性肺がん・がん性胸腹膜炎が対象疾患です。
- 4** 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術
骨粗鬆症等に対する骨セメント注入治療で、骨の強度を回復させます。
- 5** 超音波骨折治療法
手術が必要な腕や脚の骨折に対して行う治療で、術後微弱的超音波を骨折部位の皮膚の上から当て、回復を早めます。骨がつくまでの期間を約40%短縮できます。

NEWS
FLASH



「コア生涯学習型高度専門医養成プログラム」が平成20年度文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に選定されました。

本プログラムでは、滋賀医科大学を中心に9つの大学が連携し、高度で実践的かつ倫理性・科学性に富んだ専門医の育成に取り組みます。高度救急医療研修、医療安全などに関する各種セミナー等を開催するとともに、連携大学が各々の得意分野に特化した研修を実施します。

社会貢献 国際交流

社会に、世界に、オープンスタンス



本学の知的資源を地域社会等に還元するべく、医科大学の特色を生かし、臨床心理士研修コース、睡眠指導士養成講座、公開講座、出前授業など、魅力ある教育サービスを企画・実施しました。また、県内高校・大学との連携や交流を強化するとともに、国際的に開かれた大学を目指し、国際交流事業を展開しました。

社会人の学び直し&再チャレンジを支援

臨床心理士研修コースを開講

大学等で心理学を学びながらも、他の業種に就職した社会人やキャリアアップ希望者など向けに、臨床心理士研修コースを開講しました。

心理検査や心理療法、患者さんや家族に向けた心理教育や生活技能訓練など、幅広い専門知識及び臨床経験を身につけるためのプログラムを提供し、臨床心理の現場への復帰や進出を支援します。講座は5～7ヶ月間のプログラムとなっており、授業料は無料です。指導は、精神医学講座の山田教授のほか、助教・臨床心理士が担当します。

※本プログラムは、文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に選定された取組です。

県内の大学と相互に協力

大学間相互学生交流の推進

「びわ湖学生Festival」の当番校として本学学生が主体となって、県内大学の学生相互交流と地域との相互理解を目的とし、遊覧船「ビアンカ」船上でシンポジウムを実施しました。



当番校として
湖上祭を実施



遊覧船「ビアンカ」の
船上風景

「地域との交流」「学生同士の交流」「環境」の観点から、『湖上祭』と銘打って、環境をテーマにした講演会やクイズ大会などを通じて、一般参加者や学生が交流を行いました。知事を含め480名の参加者がありました。

今年で5回目となるびわ湖学生Festivalは、県内の13大学から実行委員が集まり、環びわ湖大学コンソーシアムの共催のもと学生の相互交流及び学生と地域との相互理解を深めることを目的として毎年開催しています。

地域住民向けの教育サービスを展開

公開講座、出前授業、模擬講義

ピロリ菌の発見によりノーベル賞を受賞したバリー・マーシャル教授による講演、最新のがん治療やメタボリックシンドロームなど話題性のあるテーマで公開講座を実施しました。平成19年度の開催回数は12回、受講者数は1,036名にのびりました。

また、県内の小中高校生を対象に出前授業11回、模擬講義を1回実施しました。



公開講座 参加者の声

- ・ノーベル賞受賞者マーシャル教授の講演を拝聴する機会を持ていただきありがとうございます。今後もこのような貴重な体験をさせていただきたいと思います。
- ・講座を聞いていて先生方の小児という人間に対するあたたかさ(愛情)を感じました。小児科医の不足で超多忙であると聞きますが、若い学生さん達が小児科にもっと注目して下されば良いのにと感じました。

出前授業 参加小学生の声

- ・実物や写真があって、説明がわかりやすかった。もっと時間をふやしてほしい。
- ・人間の体のしくみは、よくできているなと思いました。
- ・理科が好きになりました。



教育・研究をグローバルに展開

国際交流の促進

平成20年6月にベトナムのホーチミン医科薬科大学と大学間学術交流協定を締結しました。ホーチミン医科薬科大学は、ベトナム最大の医療系大学です。その研修病院であるチョー・ライ病院の看護部長が協定締結にあわせて来日され、本学附属病院において、病院管理・看護管理等について学ばれました。

ベトナムの病院の看護部長が、日本で研修を受けるのは国内でもあまり例はなく、県内では初めてのことです。



NEWS FLASH



平成20年7月 膳所高校・虎姫高校と高大連携事業協定を締結しました。

高校生に対し、医学や医学に繋がる基礎的な学問についての講義・実習を行うとともに、医療従事者の使命・働きがい、地域医療の現状と課題等についての講義も実施します。

調印式において馬場学長は、「医学と看護学を身近に感じてもらえるような授業をしたい。地域の高校生に興味を持ってもらい、地域医療の担い手を育てる一助になればと思う。」と語りました。



評価結果

文部科学省国立大学法人評価委員会による評価結果(平成19年度)

本学が提出した「業務の実績に関する報告書」に基づき、国立大学法人評価委員会が評価を行ったものです。業務運営、財務内容、自己点検・評価、その他(業務運営に関する重要事項)については5段階で、教育研究等については各大学の特色ある取組みが記述式で評価されます。

本学の評価は以下のとおりとなりました。

5段階評価の結果

① 業務運営	4 (順調に進んでいる)
② 財務内容	4 (順調に進んでいる)
③ 自己点検・評価	4 (順調に進んでいる)
④ その他(業務運営に関する重要事項)	4 (順調に進んでいる)

教育研究等についての評価(特色あるとして評価された取組)

- ・学部学生の海外派遣を促進するカリキュラムの充実に努め、**海外を含めた学外研修や海外への臨床実習の参加者数が増加**している。
- ・大学の特色を活かせる5項目を重点プロジェクトとして定め、学内外に公表するとともに、資源配分等を行い支援した結果、**この重点分野で獲得した外部資金等は、全体で4億7,256万円(対前年度比15.5%増)**となっている。
- ・中期目標期間の研究業績全体を評価し、**優れた業績をあげた教員2名を選び、表彰を行っている。**

ベトナムからの研修生



平成18年度に協定を結んだ**ベトナムのチョー・ライ病院**で学部学生が**3名、滋賀医科大学でチョー・ライ病院の医師・看護師・放射線技師9名が研修**するなど、国際交流の促進を図っている。

初期・後期臨床研修の充実や、コメディカルスタッフの専門化を推進するとともに、**ロボット医療の推進、先進医療の実施など意欲的な取組**が見られる。

研修医ルームを新設し、研修環境を整備するとともに、新しい研修プログラムを積極的にアピールしたことにより、**良好なマッチング結果(97.8%)を得ている。**

地域からの社会的な要請の強い周産期医療や不妊治療に積極的に対応し、また、産科オープンシステムを実施し、ハイリスク妊娠における重症母胎搬入症例が増加するなど、**地域医療のニーズに対応した医療を提供している。**

7対1看護師配置基準を取得し、**手厚い看護を提供**している。

研修医ルーム



病院再開発 information

多くの皆様にご支援・ご協力をいただき、D病棟が完成し、C病棟の改修も無事終了しました。以前から入院されていた患者さんは、新病棟や改修された病棟を見て、「綺麗になったなあ」とおっしゃっておられました。

今後は、手術棟増築、A・B病棟等の改修工事が本格的に始まります。構内道路の通行障害等により、患者さん、ご家族、関係者の方々にご迷惑をおかけしますが、何卒特段のご協力の程よりしくお願い申し上げます。



病院再開発スケジュール

- H19.08:新(D)病棟 完成
- H20.06:C病棟改修 完了
- H20.10~H21.03:A病棟改修
- H20.11~H23.03:手術棟改修・増築
- H21.06~10:B病棟改修
- H21.10~H24.01:中央診療棟 改修
外来診療棟 改修

皆さまからの声

昨年度の本誌アンケートはがきより



滋賀医科大学が、一定の医療・研究分野で優れ、有名になることを望みます。

人口増加の滋賀に役立つ、人道的な医師の育成に期待しています。

学生の写真の表情がよかったです。

患者の心の痛みのわかる病院になってほしいです。

アンケートにご協力いただきありがとうございました